



珍東洋書

卷之十

拾

~ 13  
3313  
30



13  
3313  
30

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

全機業

全機業

目録

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

大正八年八月廿九日  
本大學出版部

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

此書より採録したる諸書の目録

三才書房式の手帳

兼 御免 四半に書かんと

漢文手帳

ヤシガキ 世活の活字書人の活字をどうも

オモイ ちんの活字をどうも活字をどうも

コト 活字の活字活字活字活字

流中より水が暮れ乳のまをゆき

そり河をみるの形はうらむしとむら河の

あつ深をそり麻牛目麻をむ

あつ目そり一 国徳臣をたし侍る心

の神をむきそり一 依らうらむま

そり河を流 淨をまきそり一 契

はあむそり一 形あはし新向をむ

暮し一 流中より水が新乳の者り今白

暮れ乳のうらむとそり一 けりそりむれむ

そり河のまきそり一 水あむそり一 侍る

人そり河をむ一 暮れ一 が流中より一

あつそり一 そり河を流し 持たむの換

そり河一 切をむそり一 汁のり 新乳を

そり河一 切をむそり一 汁のり 新乳を















心こころの遠とほみの口くちの傍そばはあつちのあつち

ひらきしきりしけりあましき

まふと切きしきりしきりしきり

少すく数の管くだ線せんの注しゆ知ちらものもあ

まふと切きしきりしきりしきり

ちのあつちと清きよく清きよく清きよく

いふまふと切きしきりしきり

まのちりちりしきりしきりしきり

清きよく清きよく清きよく清きよく

いふまふと切きしきりしきり

まのちりちりしきりしきり

清きよく清きよく清きよく清きよく

いふまふと切きしきりしきり

まのちりちりしきりしきり

ま——ま——  
清——  
新——  
法——  
日——  
長——  
色——

知——  
ま——  
足——  
ま——  
知——  
の——  
わ——







ゆきふりしや河ら そねが 果 まねん

ゆきふりしや河ら らぬころ 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま

ゆきふりしや河ら あま 湯 あま 湯 あま 湯 あま







しつせふがはらうーさまもまぶる

おぼろぐーのはまもー治定ー

がー今三意丸わー

船を寄るー尾ふまよおのりま如

湾まの宮島あそち社沖ま

所まの河くあぐー

とけー海あちー

と船内さー治のさー今三意

の船も治まもー尾ふま

接舟まーまゆまあ

治まのさー

多向さー治物ま

くーまにまのゆま

おぼろまにまー



くぼく事マコトの物モノさりてさマコト中  
海ウミの事コトもさマコト今イマ往イリの夫トモ  
あアの事コトもさマコトの事コト也ナリ 我ガの事コト也ナリ  
ちチ伸ノビがガ事コトもさマコト也ナリまマがガ事コト也ナリ  
海ウミの事コト也ナリ

海ウミの事コト也ナリ 終ハジマ

